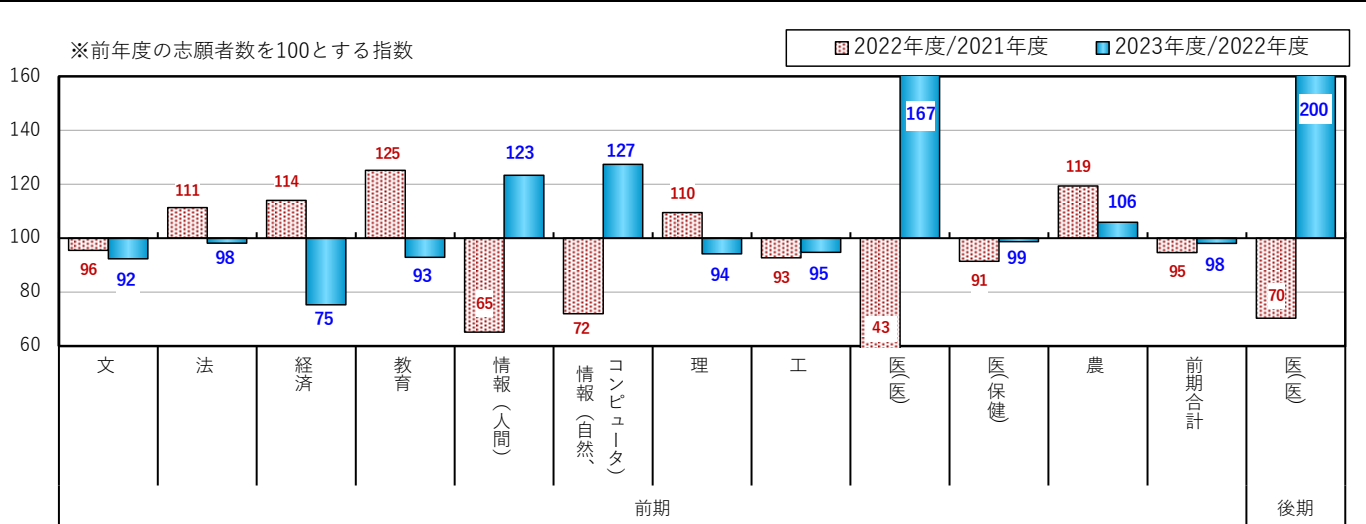


名古屋大：前期は微減、後期は医(医)のみだが募集枠変更で倍増 前期：-81人 後期：+38人



**主な入試変更点**

第1段階選抜基準変更：医(医)<前>…共通テストの合計が900点満点中700点以上の者  
 →共通テストの合計が900点満点中600点以上の者  
 医(医)<後>…共通テストの合計が900点満点中700点以上の者  
 →約12倍(通過予定人数：約60人)

募集人員：医(医)<前>…(一般枠)90人、(地域枠)0人→(一般枠)85人、(地域枠)5人 ※地域枠新設  
 医(医)<後>…(一般枠)0人、(地域枠)5人→(一般枠)5人、(地域枠)0人 ※一般枠新設、地域枠廃止

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は81人(98)の微減で2年連続減少。文理別では、文系は2年連続増加の反動により、133人(89)の減少。理系は前年度減少の反動は小さく、52人(102)の微増。後期は医(医)のみの募集だが、今年度から募集枠を(地域枠)から(一般枠)に変更したことにより38人(200)の倍増。

<前期日程>

- 文(92)は、系統への低い人気より前年度のやや減少に引き続き減少。志願者数は7年ぶりに220人を下回った。
- 法(98)は、2年連続増加の反動は小さく微減。
- 経済(75)は、前年度増加の反動で大幅減少。志願者数は2005年度以来の18年ぶりに400人を下回った。
- 教育(93)は、前年度大幅増加の反動でやや減少。
- 情報(126)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、文系の(人間・社会情報)(123)は大幅増加で前年度の反動による増減が継続。理系の(コンピュータ科学)(143)は2年連続減少の反動で大幅増加、(自然情報)(103)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。
- 理(94)は、前年度4年ぶりに増加に転じたが反動でやや減少。
- 工(95)は、2年連続やや減少で、7学科中4学科が減少。2017年度の改組後では志願者数は最少で1,500人を下回った。学科別では、(エネルギー理工)(143)は前年度ほぼ半減の反動で大幅増加。(マテリアル工)(131)は大幅増加で前年度の反動による増減が継続。(環境土木・建築)(107)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。一方で、(物理工)(71)は2年連続大幅増加の反動で大幅減少。(電気電子情報工)(80)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、2017年度の改組後初めて志願者数300人を下回った。(化学生命工)(82)は大幅減少で2年連続減少、2017年度の改組後初めて志願者数150人台となった。(機械航空宇宙工)(98)は微減だが2年連続減少、2017年度の改組後では志願者数は最少。
- 医(医)(167)は、募集人員90人中5人が新たに(地域枠)となった。学科全体では、第1段階選抜の基準点緩和に共通テスト平均点のアップが加わり激増。募集枠別では、(一般枠)(151)は5割を超える大幅増加で、募集人員が6%減少したこともあって、志願倍率は1.7倍→2.7倍にアップ。新規の(地域枠)は募集人員5人に志願者数は23人で志願倍率は4.6倍と(一般枠)よりも厳しい競争だった。
- 医(保健)(99)は、微減だが3年連続減少。専攻別では、(保健/看護学)(76)は2年連続増加の反動で25%近い大幅減少だが、これを除く4専攻は増加。(保健/放射線技術科学)(116)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。(保健/作業療法学)(113)は2年連続幅減少の反動で増加。(保健/検査技術科学)(108)は前年度大幅増加に引き続き、さらに増加。(保健/理学療法学)(106)は、前年度減少の反動は小さくやや増加。
- 農(106)は、系統への高い人気もあり、前年度の大幅増加に引き続きやや増加。学科別では、(資源生物科学)(153)は大幅増加で2年連続増加、志願者数が130人を上回ったのは現行課程入試が始まった2015年度以降では初。志願倍率も2.1倍→3.2倍にアップ。(生物環境科学)(111)も2年連続増加。一方で、(応用生命科学)(83)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。